

NPO 法人環境市民 理事会 第 10 期 第 1 回 (通算 93 回) 理事会 議事録

(a) 日時及び場所

日時：2019 年 9 月 11 日 (水) 13:00-16:00

場所：京都市東山いきいき市民活動センター (京都市東山区三条通大橋東入 2 丁目下る巽町 442 番地の 9) 101 会議室

(b) 理事の総数

14 人 (うち定足数 10 人)

(c) 出席した理事の氏名 (以下、敬称略)

石崎雄一郎、太田航平、加藤良太、下村委津子、杵本育生、原田紀久子、松田直子、以上 7 名
(Skype による参加) 瀬口亮子、以上 1 名

特定非営利活動法人環境市民定款第 40 条第 1 項の規定により表決権を行使した理事は次の通り。

片山雅男、嘉田由紀子、神田浩史、白石克孝、早瀬昇、松下和夫、以上 6 名

合計 14 名

同定款第 38 条の規定により定足数 (理事総数の 2/3) を満たし、開会した。

(d) 議長 下村委津子を指名

(e) 議事録署名人 松田直子、加藤良太

(f) 議事録作成者 風岡宗人

■ 報告事項

- ・ 杵本代表より職務復帰の見込みについて報告があった。
- ・ 下村副代表より環境首都創造 NGO 全国ネットワーク、環境首都創造ネットワーク活動状況、『企業のエシカル通信簿』報告書完成と第 3 回結果発表会 in 大阪」開催結果、本年度後半の収支見込みについて報告があった。

■ 付議事項及び決定内容

1) 環境市民の今後の活動戦略と組織のあり方について (中期計画) フリーディスカッション

[資料 2018 年度, 2019 年度活動方針]

下村副代表より、今年度中に今後の活動戦略、組織のあり方について立案が必要である旨説明を受け、フリーディスカッションを行った。結果、11 月初旬を目処に、各理事が環境市民でやりたい活動企画を持ち寄り、今後の活動、組織のあり方について議論を始めていくこととなった。

署名欄 議長 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____

(以下は議論の詳細を含む。WEB で公開せず)

1 報告事項

- ・ 杵本代表の退院に向けてのスケジュール

杵本) 10 月 10 日前後に退院できる見込み。その際は快気祝いのパーティを開きご招待したい。今年度重要な活動について、退院後ゆっくと再開したい。講演会などは無理せずじわじわこなしていきたい。

- ・ 環境首都創造 NGO 全国ネットワーク、環境首都創造ネットワーク活動状況

下村) 環境首都創造 NGO 全国ネットワークの活動には地球環境基金から助成金を受けており、ほぼ計画どおり進んでいる。環境首都創造ネットワークでは環境自治体会議との統合が進んでいる。両者が解散し、新しい組織をつくる。来年 6 月発足、10 月に設立総会を開催予定。

- ・ 「企業のエシカル通信簿」報告書完成と第 3 回結果発表会 in 大阪 開催

下村) SSRC の事務局を担っている。エシカル通信簿の報告書を作成し 1000 円で販売している。国内で唯一の取り組みでありぜひ販売促進にご協力願いたい。この報告書をもとに大阪で発表会を開催した。参加者の 1/3 が研究者、1/3 が市民、1/3 が NGO とバランスが良かった。研究者の方から提案もいただき、社会への影響力を強めていきたい。

- ・ 2019 年度後半の収支見込 [資料 事業計画、収支予算書、2019 年度後半収支見込試算]

下村) 資金繰り的には非常に厳しい状況。多くの受託事業の入金時期が年度末に集中する。役員報酬の支払いを後回しにすることで、なんとか借り入れしなくてもギリギリやっつけられる見込みである。

原田) 資金繰りが苦しい場合は、10 万円の事務所家賃のコストを下げることを真剣に考えたほうがよいのでは。また、役員手当やスタッフが研修で得た謝金収入は、各事業の事業経費ではなく、管理費での人件費として計上すべきではないか。今後、恒常的なスタッフを雇用していくなら労務的なルールを明確化したほうがよい。

2 討議事項

1) 環境市民の今後の活動戦略と組織のあり方について (中期計画) フリーディスカッション
[資料 2018 年度, 2019 年度活動方針]

下村) 本来なら、2020 年度以降の中期計画の立案が進んでいなければならないが、現状まだ出来ていない。

原田) 常勤スタッフがいなくなったり、杵本さんが倒れられたり、今ある活動方針が立案された当時と今では、状況が大きく変わっている。改めて検討が必要。中期計画の立案を担う若手も、環境市民で事業を担当しているわけではなく、各自の本業もある。今後、組織を引っ張るには、それなりに環境市民の事業に関わり、引っ張っていく必要があるが、その余裕はない状況だ。自分達が関わらないのに、中期計画を立案させても意味がない。そこで、現在まで環境市民を引っ張ってこられた杵本さん、下村さんにまず環境市民をどうしていきたいのか、お考えを聞かせてほしい。

→下村) 環境首都の活動、持続可能な消費は重要だと思っている。

→原田) 個別の事業の話ではなく、組織をどうしていきたいか、という部分について聞きたい。

→下村) ビジョンや理念はそのまま引き継ぎたい。組織のあり方としては、環境市民が認定 NPO 法人を続ける必要はないと思っている。環境市民はいつの時代も少し先を見据えてきた。自前の事務所とスタッフを持って活動を続けることができる、ということを示した。21 世紀、どういう組織が必要なのかを考えると認定 NPO 法人でなくてもいいと思っている。

→原田) NPO 法人としてのメリットがないなら任意団体でいいとして、杵本さん、下村さんメインですすめていくのか、それ以外の人を巻き込んでいきたいのか？

- 下村) 当時は「寄付を集められる団体にしよう」という方針が強かった。基礎体力を強くするためには寄付を増やすということが理事会で決まった。現在は企業からの寄付もほとんどない。これからの社会を見据えて、これからも NPO 法人がいいのかどうかはよくわからない。
- 原田) 寄付や会費をどうするかという話よりは、やりたいことを実現するためにどういう組織であるべきか、という順序で考えたほうがよい。
- 加藤) 私の知っている団体は事務局を縮小し、士業のスタッフに事務を依存することで固定費を減らしている。
- 瀬口) シェアオフィスのメリットはあるが、恒常的にボランティアが顔を合わせられる環境がない。若手へのバトンタッチをうまくやれればと思う。
- 風岡) これまで取り組んできて実績のある活動について、枚本さん、下村さんが引き続き発展させていくとして、それをバトンタッチするのは簡単ではない。人に譲っていくというよりは、新しい担い手が主導して動かしていくプロジェクトが生まれるかどうかということが大切で、組織論はその後の話ではないか。
- 加藤) 環境市民のネットワークは全国に広がっているので、引き継ぎ手はいるのではないかと。しかし京都や関西ではなく首都圏に主導権を奪われるのではないかと不安。
- 松田) 多数のプロジェクトを複数の人が同時に動かしているイメージを持っている。いま動いている事業があるので、組織としては 2 段階で考えていかなければならないと思う。
- 太田) 組織を縮小していくネガティブな方向が一方にあり、もう一方で事務スタッフを雇っていくなら恒常的な収入が必要。後ろ向きではなくポジティブに考えたい。環境マイスターなどを営業気を出して進めていく方向も必要。業界からは環境市民に期待されていることはまだある。社会的投資を集めるとか、他の団体の職員から出向させるとか、選択肢はあると思う。
- 原田) 事務所をたたむというのは決してネガティブな話ばかりではない。資金繰りが十分できていない、というのは事実。いろいろ提案はできるが、ここ何年も同じことを議論し続けている。環境マイスターの新規開拓も必要だが、今の下村さんだけの体制では無理。結局、提案しても、それを誰がやるのか、やりたいという人がいなければ、提案や計画の意味はない。
- 枚本) やりたい人がやりたいことを持って環境市民に来ないとだめ。SDGs の流れにうまく乗ってできることがあると思う。組織維持のためにしんどくなるのはよくない。認定 NPO もやめたらいい。イメージとしてはワーカーズコープ的なもの。
- 原田) 組織形態にすぐ答えを出すことは難しいが、事業を進めていくうえで、枚本さんが言っているように、“自分がこれを環境市民でやりたい”という人がいなければ事業も組織も存続しない。
- 枚本) 世代交代といっても先代を引き継ぎたいという人よりも、新しい事業に人は集まってくる。
- 石崎) やりたいことをやれる場として環境市民はあったと思う。言いたいことを言える場という意味でも環境市民は重要だと思う。
- 加藤) 環境市民のビジョン、理念に基づいて共有している価値基準を改めて確認し、それを生かしていく方向で事業を考えていけるのではないかと。
- 枚本) 1 人 1 プロジェクトを持ち寄ってはどうか。
- 下村) かつて環境市民に関わるボランティアは自分の理想を持っていた。
- 原田) ボランティアをまとめて動かすのは、今のように下村さんが事務局業務で忙殺されている状況では無理。認定 NPO もメリットよりデメリットのほうが大きいならやめたほうがいい。会員管理にコストが掛かりすぎているのであれば会員制度もやめてもいいかもしれない。
- 枚本) 会を支えるだけの会員ならやめてもいいと思う。
- 下村) 見返りがなくてもいいという人を会員と考えてもいいのではないかと。

- 風岡) ここにいる皆、環境市民の存在は重要だと思っているのであれば、本業ではできないがやりたいことを持ち寄ってプロジェクトを作っていくミーティングをしていけばいいのではないかな。
- 加藤) 私はアドボカシーという手法を使って環境市民の活動を強くしていくところでお役に立ちたい。
- 原田) 私は、環境市民の経営や組織運営への助言はできるが、環境が専門ではないので、環境市民のプロジェクトを担当したり、新しい事業を立ち上げて環境市民の活動としてやることは出来ない。
- 杵本) ビジョン、ミッションを再度読んでみるというのは大切。自分の考えを持ち寄って共感を得られるかどうか。出てこなければ解散したほうがいいのかもかもしれない。

次回日程 11月上旬火～木で調整、1人1プロジェクト提案会を行う。但し、提案は、自分が環境市民で責任もって遂行するというもの。